

# 技術士 1 次試験に合格して



**三浦 広仁**

(みうら こうじ)

勤務先

■ 専門：衛生工学部門

## 1 自己紹介

私は北海道苫小牧市出身で、地元の工業高校機械科を卒業し、札幌市役所へ入庁 42 年間勤務の後 3 月末に定年退職しました。この間 38 年を環境行政に携わり、主に清掃工場などの中間処理施設の運転管理、建設計画や最終処分場運転管理、JICA 海外支援事業としてドミニカ共和国への派遣、廃棄物処理計画の策定、札幌市清掃事業として初の PFI 事業である清掃工場建設の計画推進にも携わりました。

## 2 受験動機

技術士は、知識と見識や常識を十分にお持ちの方の「特殊」な資格であると勝手に思っていました。数年前、技術士を取得している職員から、退職後に受験されている方の話を聞き、退職間近の私も受験できるのかなと半信半疑で興味を持ったことが、人生初受験のきっかけとなりました。加えて、あわよくば 60 歳で官報に(朗報として)氏名が載るというのも退職記念に良いかなと邪な思いも若干含まれております。

## 3 勉強方法

まず、どの部門で受験するのかを考えたときに、本来の専門である機械工学は計算問題を敬遠し断念、38 年お世話になった廃棄物系業務の集大成になることも期待して衛生工学部門を受験することに決めました。そして、令和 3 年 8 月頃他の資格試験を終えてから準備を始めました。

衛生工学部門の参考書は少なかったため、仕方ないので、こちらは、過去問 12 年分をダウンロードし繰り返し解きました。

専門では 35 問中 25 問の選択が生死を分けるので 25 問を最適な選択となるよう組合せを考えました。廃棄物関係はおよそ 12 問、排水処理技術は 7、8 問、残りは空調衛生で 7、8 問選択して目標 6 割としました。参考書は、以前に受験した下水道技術

検定のテキストを読み返し、廃棄物関係の出題はほぼ過去問の繰り返しでしたので、実際それほど時間をかけていません。

さて、最大の試練は基礎科目でした。テキスト(赤い本)を購入し、通勤時間(片道 30 分)に眺める、昼休みに喫茶店で 10 分ほど眺める。平日の自宅では、過去問をタイムテーブルどおりに解き、自作の回答用紙で苦手な傾向を分析しました。必然的に 1 時間以上は必要となるので、その日の都合によって基礎科目だけ、適性科目だけを解いたりして、極力、問題や解説に触れる時間を設けました。数学の基礎などや理解が困難なところは動画や解説サイトを参考に勉強しました。特に、動画解説はテキストだけでは理解できない部分を補うのにとっても役立ったと思います。

## 4 終わりに

これまで、資格は実務で必要とされるものを中心に取得してきました(先輩からの叱咤激励もあり)。技術士は実務で必要と考えたこともなく現在に至りましたが、今はなぜもっと早く受験しなかったのか、非常に残念な思いで一杯です。現場で、仕事を覚えて一人前になることは、社会人としてももちろん重要なことです。それに加えて技術者として物事を俯瞰してみるという視点を「持っている」という証明となるのが技術士ではないかと今更ながら感じています。

現役時代、後輩たちに技術士資格についての確に伝えることができなかった自分を反省しています。

今後は、自己研鑽を怠らず、二次試験に取り組んでいきたいと思ひます。

最後に、祝賀会行事と本投稿の機会を提供していただいた、日本技術士会北海道本部事務局の皆様に感謝申し上げます。